

キャッシュレス化を 推し進めるためには

名古屋市立大学
2019年度川端ゼミ3年

2019年度中部経済学インターゼミ
@名古屋学院大学
2019.11.30

目次

1. 背景・現状・研究の目的
2. 海外・日本でのキャッシュレス先行事例
3. 消費者・企業アンケート
4. キャッシュレス決済のメリット・デメリット
5. 全体を踏まえて
6. 結論

背景・現状・研究の目的

PayPay

LINE Pay

R Pay

au PAY

Apple Pay

d払い

Google Pay

ORIGAMI

ゆうちょPay



JCB

VISA

mastercard

AMERICAN EXPRESS

Diners Club INTERNATIONAL

UnionPay 银联

신한카드 新韓カード

DISCOVER

第36回 2019年 ノミネート語

No.01 あな番（あなたの番です）

No.03 おむすびころりんクレーター

No.05 #KuToo

No.07 軽減税率

No.09 サブスク（サブスクリプション）

No.11 上級国民

No.13 タピる

No.15 翔んで埼玉

No.17 にわかファン

No.19 ハンディファン（携帯扇風機）

No.21 ホワイト国

No.23 MGC（マラソングランドチャンピオン
シップ）

No.25 闇営業

No.27 令和

No.29 笑わない男

No.02 命を守る行動を

No.04 キャッシュレス／ポイント還元

No.06 計画運休

No.08 後悔などあろうはずがありません

No.10 ジャッカル

No.12 スマイリングシンデレラ／しぶこ

No.14 ドラクエウォーク

No.16 肉肉しい

No.18 パプリカ

No.20 ポエム／セクシー発言

No.22 ○○ペイ

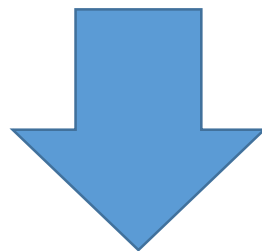
No.24 免許返納

No.26 4年に一度じゃない。一生に一度だ。

No.28 れいわ新選組／れいわ旋風

No.30 ONE TEAM（ワンチーム）

キャッシュレス決済とは？



・経済産業省の定義によると、

「物理的な現金(紙幣・硬貨)を使用しなくても活動できる状態」のことである。

・クレジットカード

- VISA
- JCB

・電子マネー

- manaca
- WAON

・QRコード

- PayPay
- LINE Pay

データから見るキャッシュレス化と 日本経済

- ・ 2014年1月～2019年3月のデータを四半期ごとにまとめて使用
- ・ キャッシュレス使用率を説明変数、家計最終消費支出を被説明変数として $y_i = \alpha + \beta x_i + u_i$ ($i = 1, 2, \dots, 21$) の線形回帰式の導出

基本統計量

変数名	単位	サンプル数	平均	標準偏差	最大値	最小値
キャッシュレス使用率	%	21	18.0	2.4	22.0	14.4
家計最終消費支出	10億円	21	73,466.3	1,209.2	76,082.1	71,117.8

出典：日本銀行決済動向一覧、日本クレジット協会、内閣府 国民経済計算 (GDP統計)

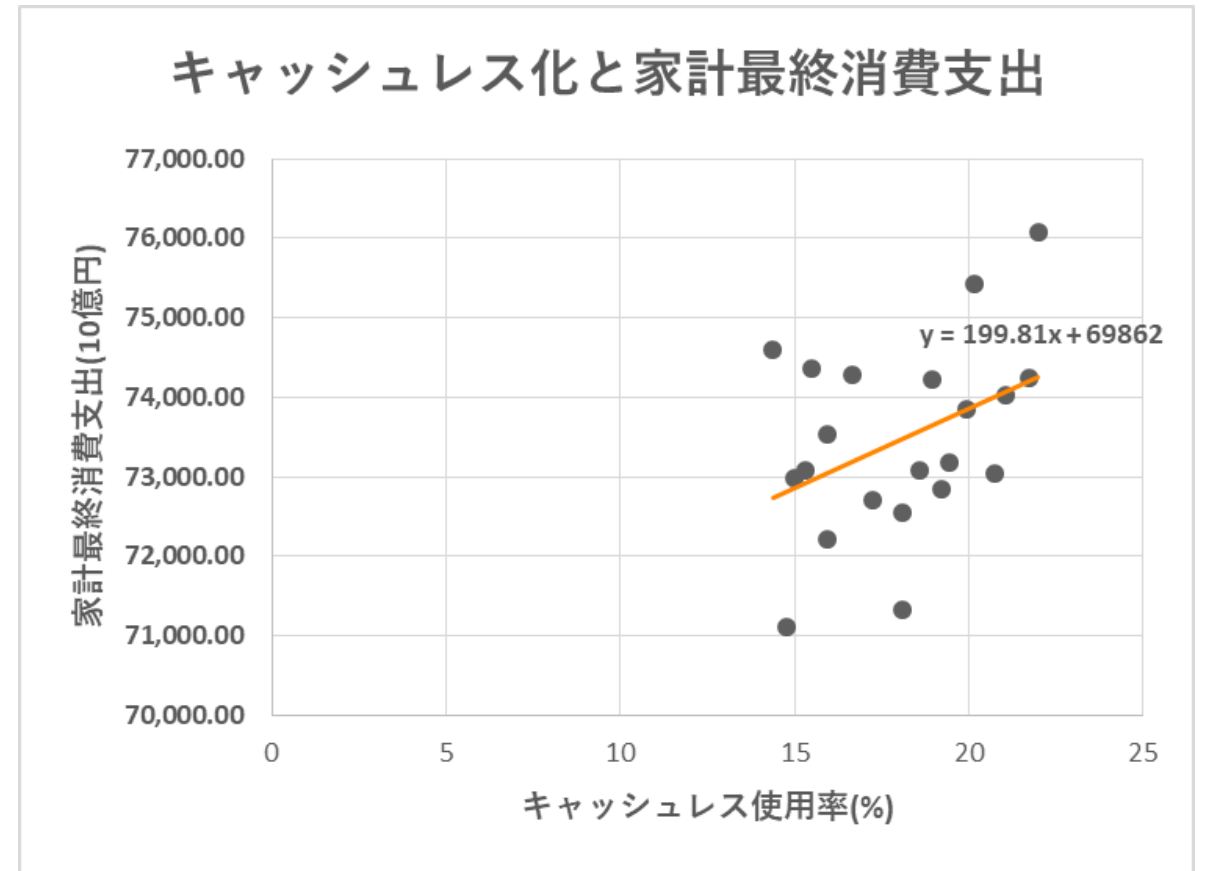
データから見るキャッシュレス化と 日本経済

推定結果(OLS)
被説明変数:家計最終消費支出, N=21

変数	係数	t値	P-値
定数項	69,862.288	36.477	0.000
キャッシュレス使用率	199.811	1.898	0.073

相関係数および決定係数

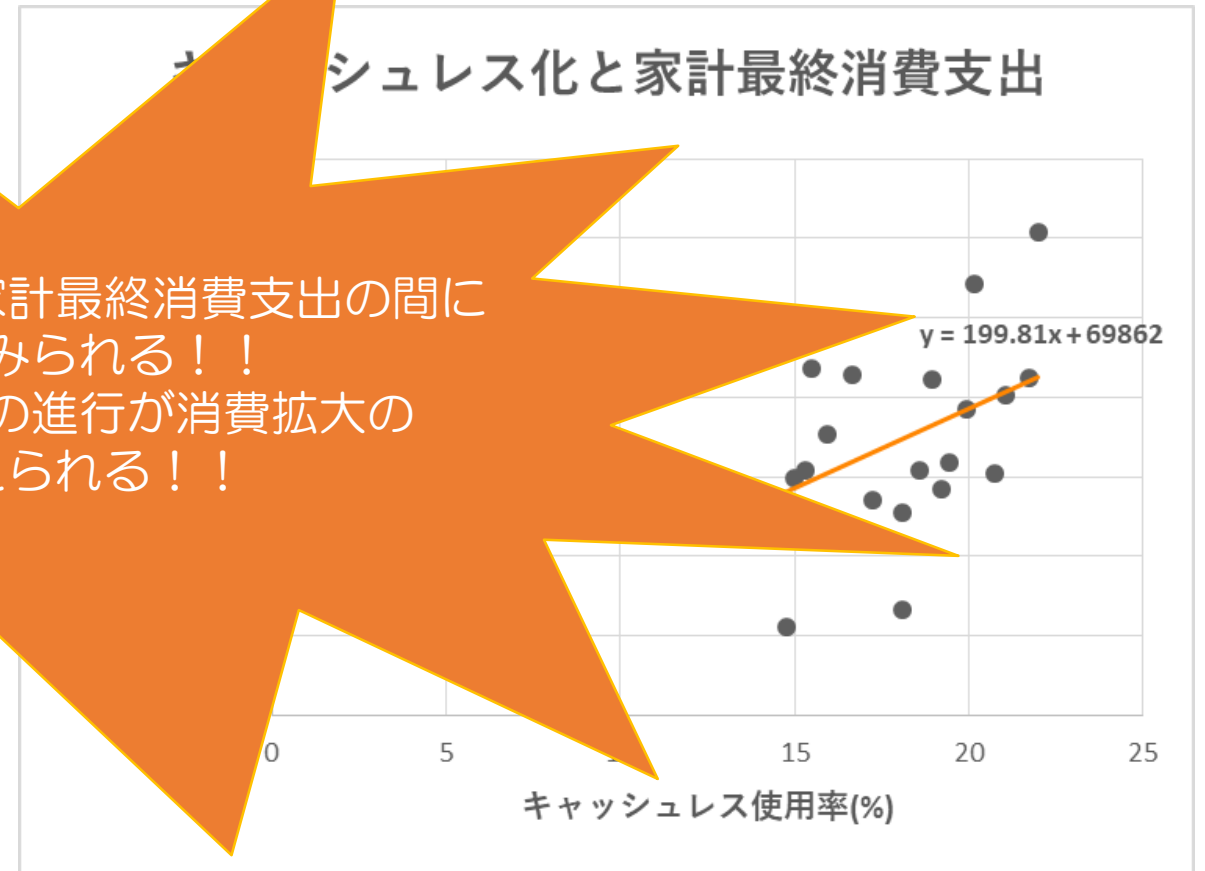
相関係数	0.399
決定係数	0.159



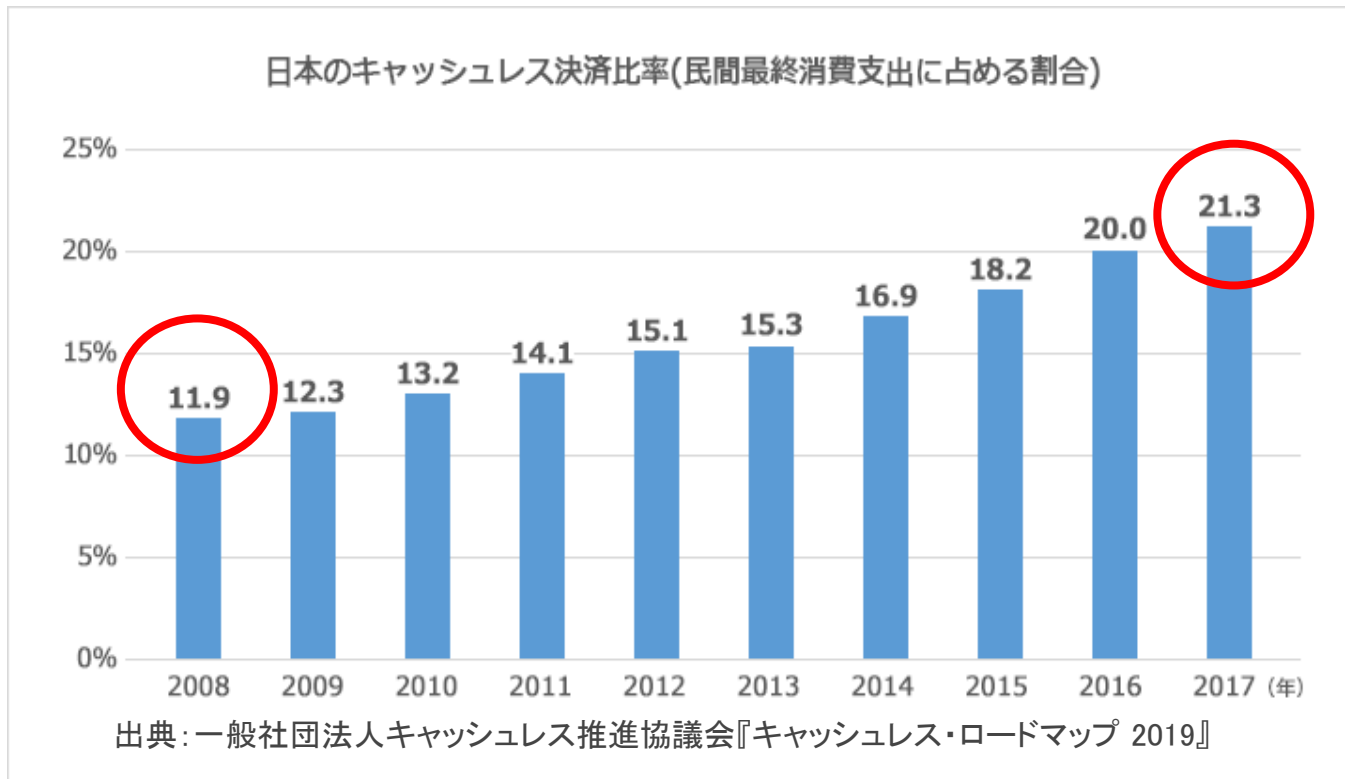
データから見るキャッシュレス化と 日本経済

推定結果(OLS)		
被説明変数: 家計最終消費支出, N=2		
変数		t値
定数項	69,	
キャッシュレス化率		
相関係数		
相関係数		
決定係数	0.59	

キャッシュレス率と家計最終消費支出の間に
正の相関がみられる！！
キャッシュレス化の進行が消費拡大の
一因と考えられる！！



キャッシュレス決済の現状



キャッシュレス決済の割合は

2008年: **11.9%**

↓ +9.4%

2017年: **21.3%**

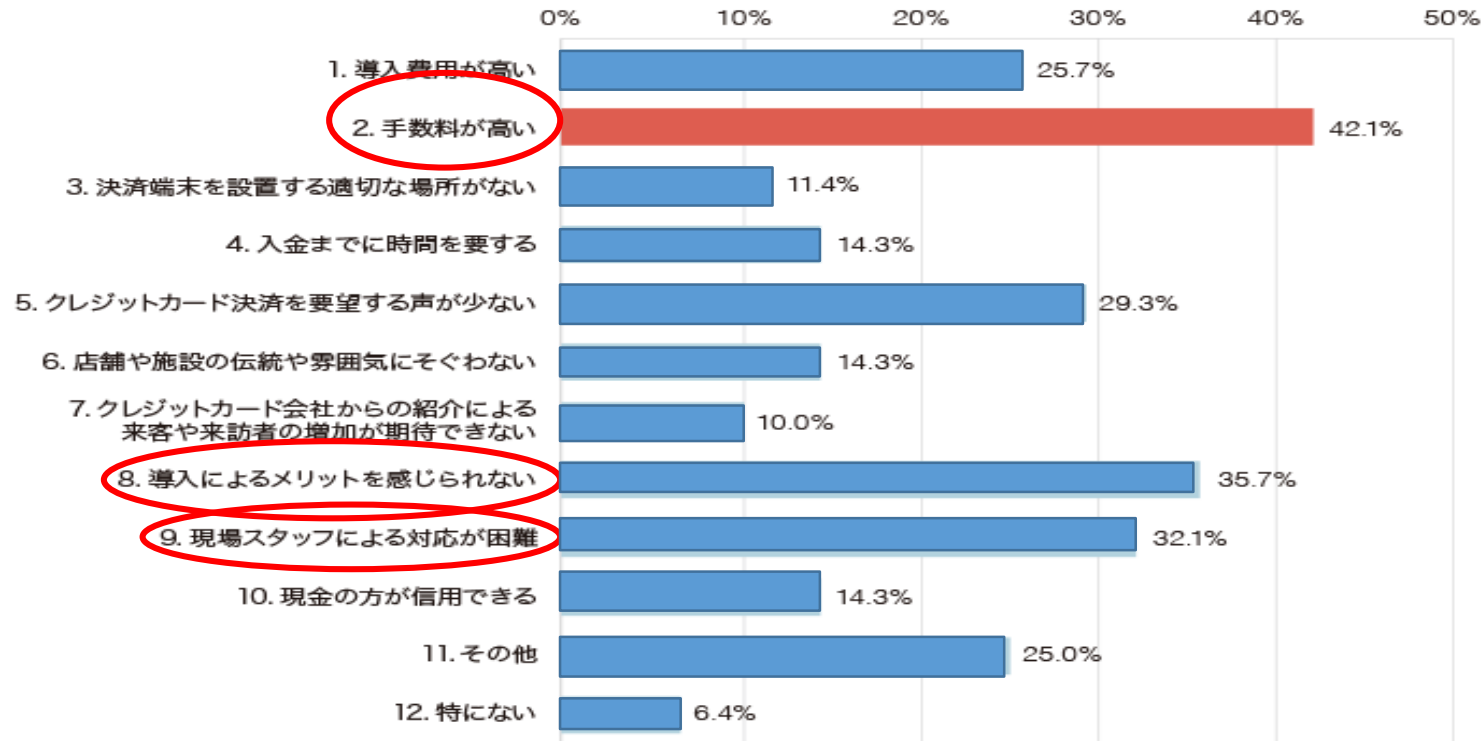
→現金支払いが多い！

クレジットカードの年間決済額
2017年: 58兆3711億円

電子マネーの年間決済額
2017年: 5兆1994億円

キャッシュレス化が進まない背景

キャッシュレス支払(クレジットカード)を導入しない理由(n=140)



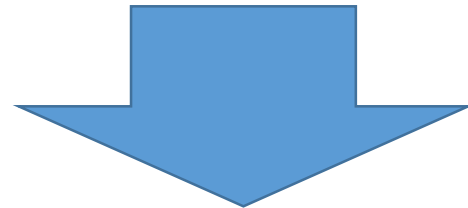
実店舗では

- ・導入
- ・運用、維持
- ・資金繰りの観点で

キャッシュレスが普及しない背景があると考えられる。

研究の目的

- 社会的にも認知度が高くなりつつある
- データよりキャッシュレス化の進行が消費促進・GDP増大の一因と考えられる
- しかし現金支払いが約8割とキャッシュレス化が進んでおらず、運用等の面で問題がある



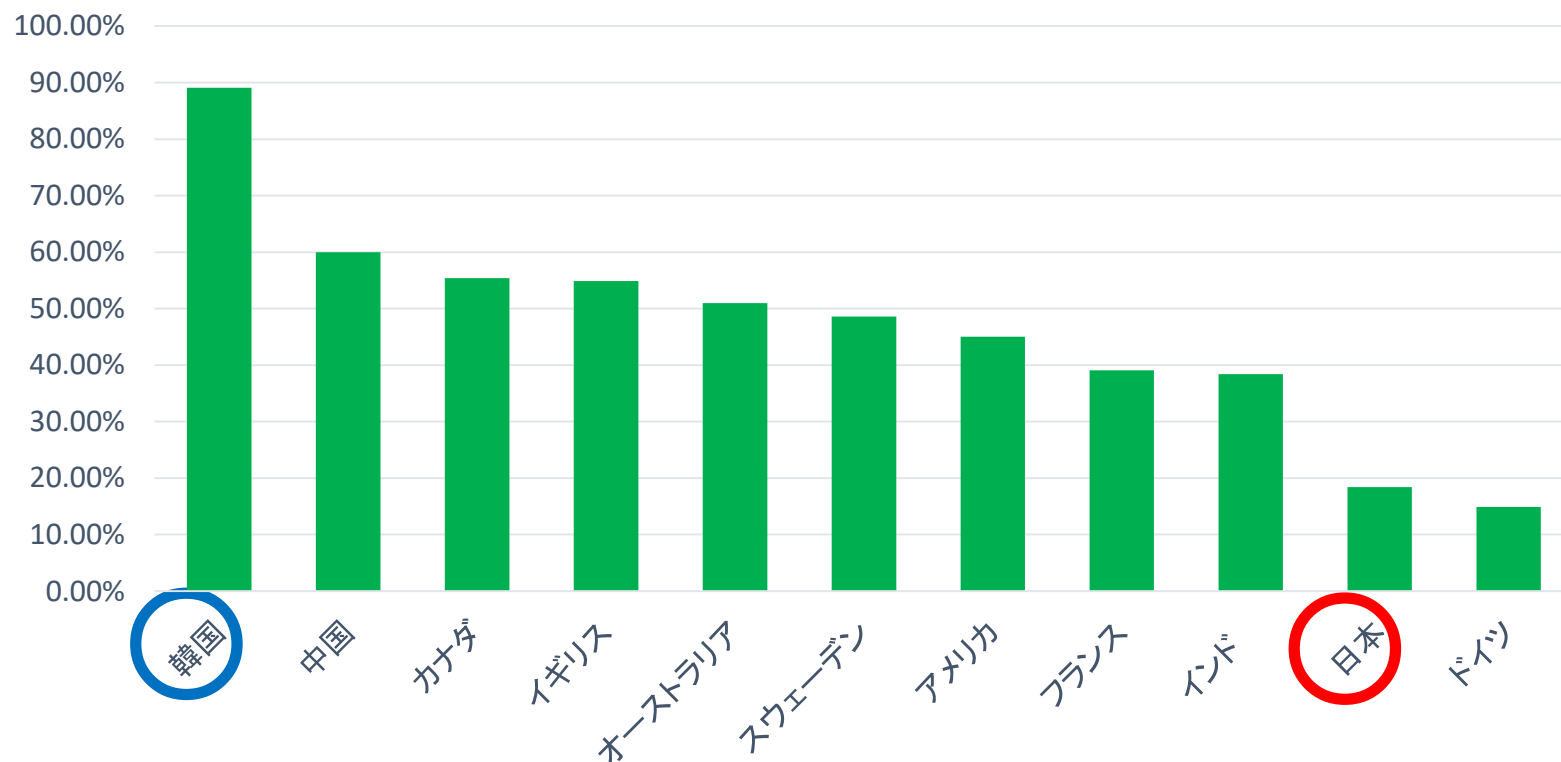
社会的に認知されつつある今、さらに普及させていくためには
どのようにすべきか

**海外でキャッシュレス化が
普及している背景**

世界のキャッシュレス動向

各国のキャッシュレス決済比率の状況

(2015年)



韓国 89.1%

キャッシュレス化進展国
40%～60%台
に到達する中、、

日本は・・・
18.4%
にとどまる。

出典: 経済産業省 キャッシュレス・ビジョン

<https://www.meti.go.jp/press/2018/04/20180411001/20180411001-1.pdf>

日本と比べて海外では・・・

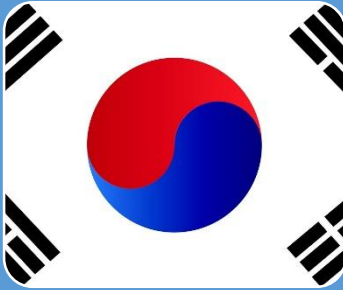
- ・常にひったくりに遭う危険性（犯罪率の高さ）
→現金を持ち歩くことがリスク
- ・偽札が混入している可能性
→現金への信用度が低い

【流れ】



スウェーデン

キャッシュレスの先駆け



韓国

国を挙げたキャッシュレスの促進



中国

近年目覚ましい発展を遂げる

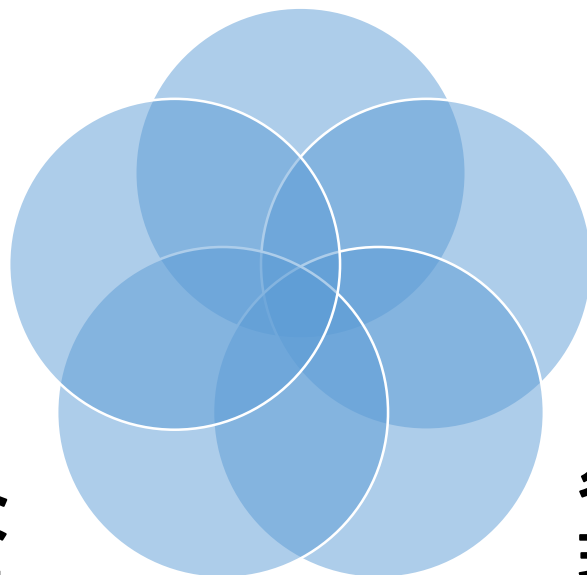


スウェーデン①

1990年初頭の
バブル崩壊

増加する強盗
犯罪への対策

慢性的な
人手不足



金融機関中心
の生産性向上
の目標

冬季期間の
現金輸送の
困難さ



スウェーデン②



【取り組みと実績】



小切手からデビットカードへの移行



現金取り扱いの廃止



実店舗での「現金拒否」



Swishの登場



出典

経済産業省商務・サービスグループ消費・流通政策課



韓国①

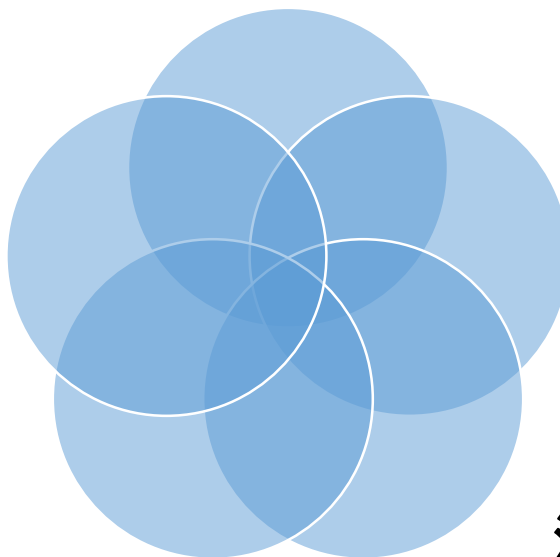
1997年
東南アジア
通貨危機

税制上の措置

脱税防止

政府主導の
クレジット
カード利用
推進策

消費活性化





韓国②



【取り組みと実績】



年間クレジットカード利用額の 20% の所得控除



宝くじの権利付与



店舗でのクレジットカード取扱義務付け



硬貨発行の削減に向けた電子マネーの活用



出典
経済産業省商務・サービスグループ消費・流通政策課

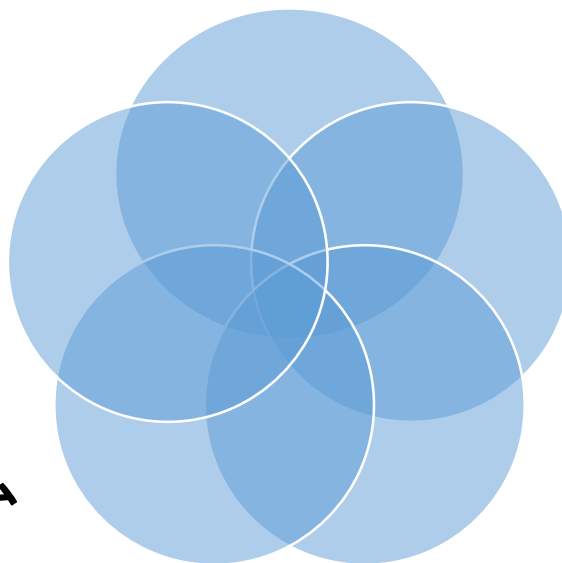


中国①

偽札問題

個人間ベースの
支払サービス

決済システム
やルールが
不統一



脱税問題

流通・印刷
のコスト



中国②



【取り組みと実績】



銀聯の設立



アリペイの登場



出典

経済産業省商務・サービスグループ消費・流通政策課

日本の事例



経済産業省

Ministry of Economy, Trade and Industry

の取組

2019年10月1日消費税率引上げ

→需要平準化対策として・・・

✓ キャッシュレス・消費者還元事業

キャッシュレス対応による生産性向上や消費者の利便性向上

中小・小規模事業者における消費喚起を後押し

事業者・消費者双方におけるキャッシュレス化を推進



キャッシュレス・消費者還元事業

消費者還元期間

- 2019年10月～
2020年6月（9
か月間）

対象決済手段

- クレジットカード
- デビットカード
- 電子マネー
- QRコード など

消費者の利点

- ポイント還元



日本どこでも
このマークのお店なら
キャッシュレスで
最大**5%還元**

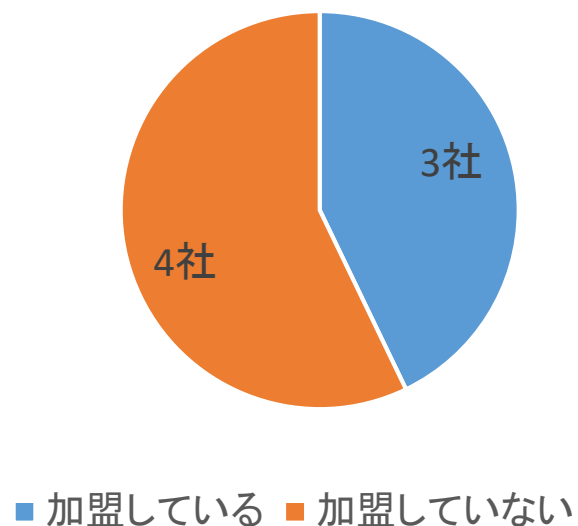
キャッシュレス・消費者還元事業

消費者還元期間：2019年10月～2020年6月

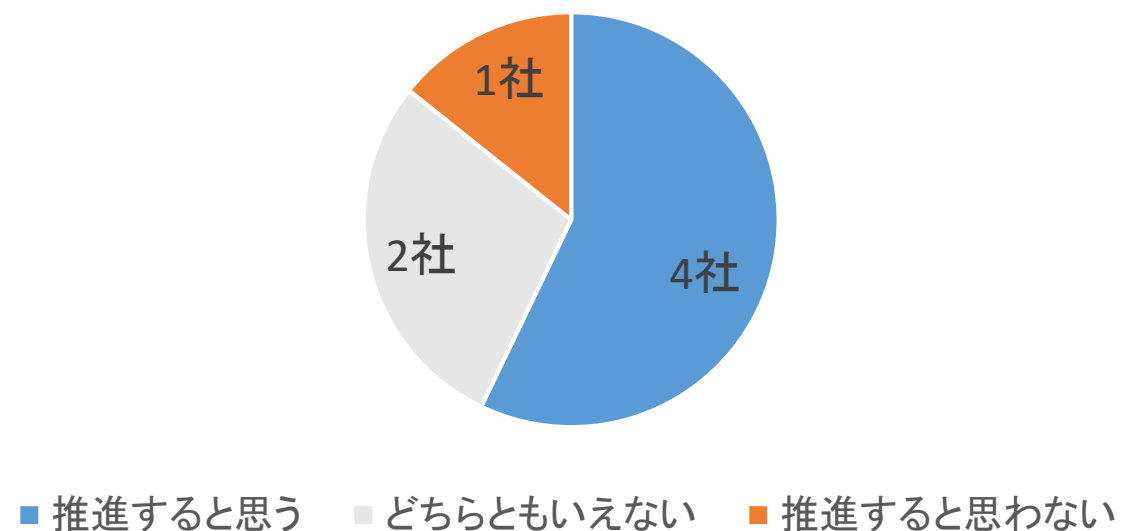
キャッシュレス・消費者還元事業

- 後述の企業アンケートより...

当該事業に加盟しているか



当該事業でキャッシュレス化が推進すると思うか



消費者・企業アンケート

キャッシュレスに関する学生アンケート

1. 実施期間 10/3(木)～10/17(木)
グーグルフォームのアンケート 回答数 54
2. 名古屋市立大学の国際経済学Ⅱの授業
でのアンケート
回答数 77

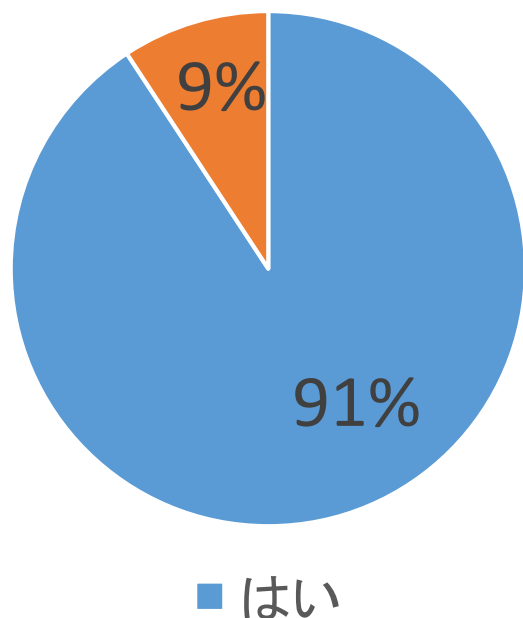


質問内容

- ・使ったことのあるキャッシュレス決済について
- ・使う頻度
- ・使い始めた理由
- ・あまり使わない理由

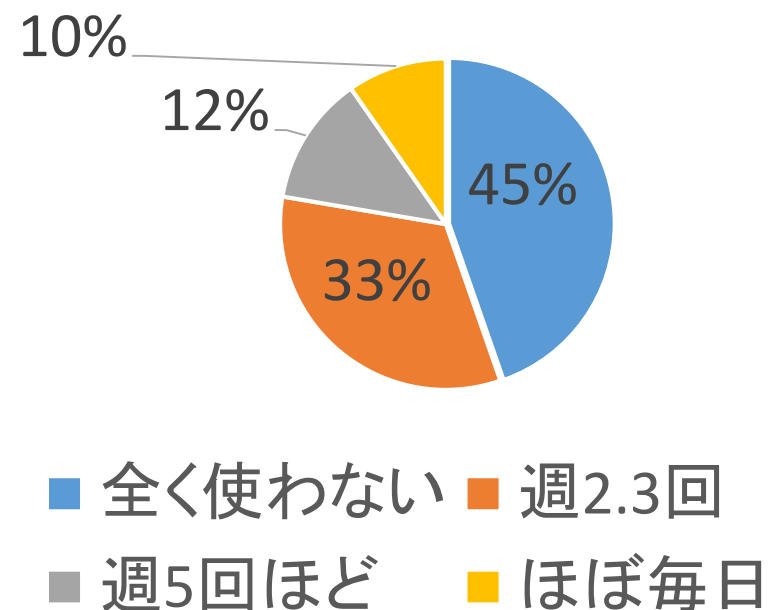
キャッシュレスを使ったことがあるか？

キャッシュレス決済を利用したことがあるか



ほとんどの学生はキャッシュレスを利用したことがある！！

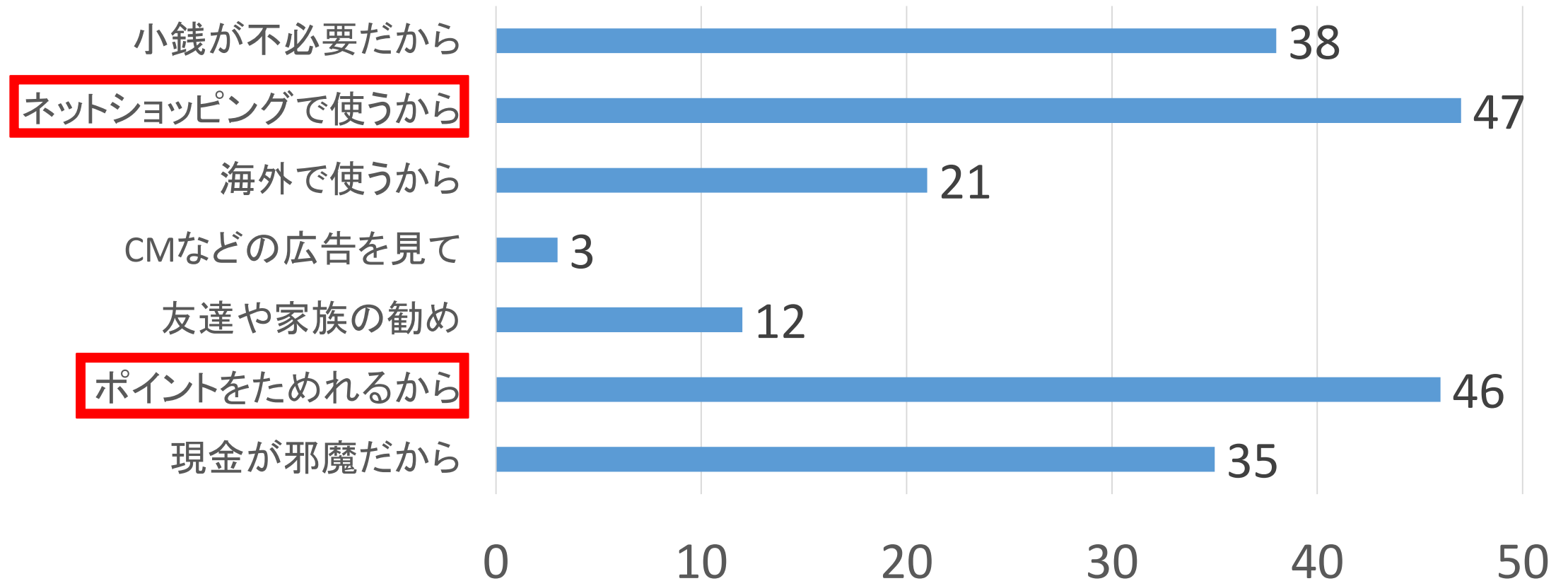
交通系IC以外で週にどれくらい使うか



約半分の学生はキャッシュレスを使わない！！

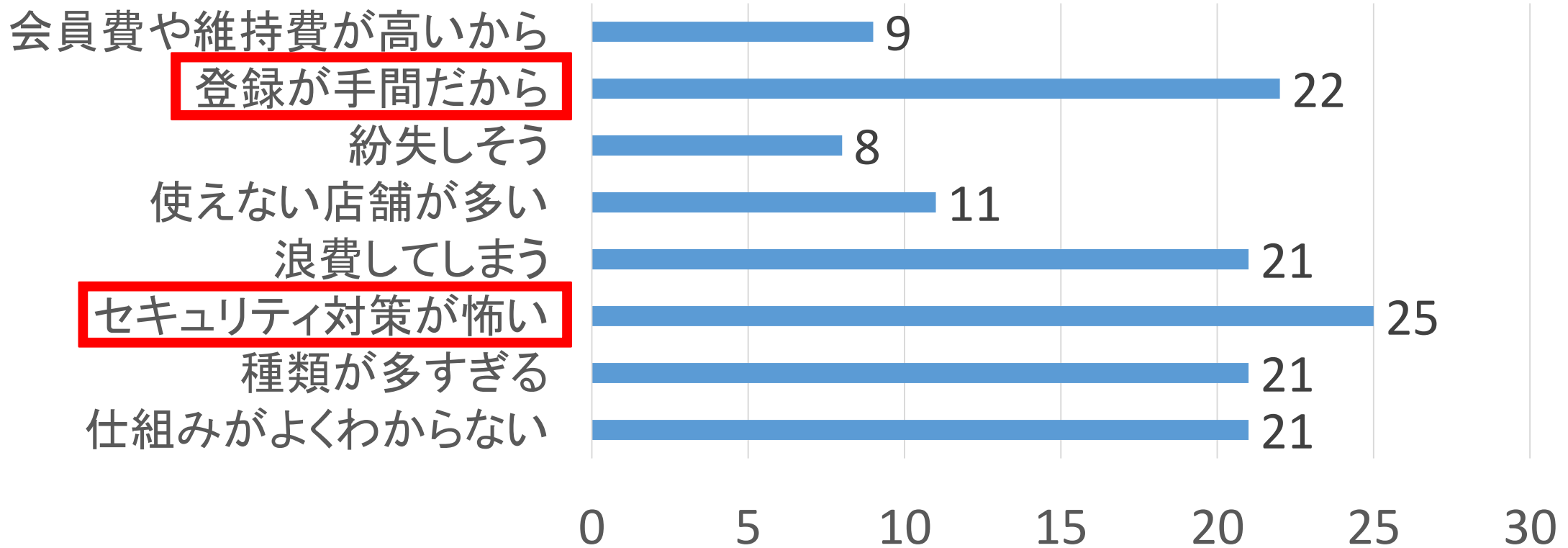
使い始めた理由

キャッシュレス決済を使い始めた理由



あまり使わない理由

キャッシュレス決済を使わない理由



中年・高齢者アンケート

●方法

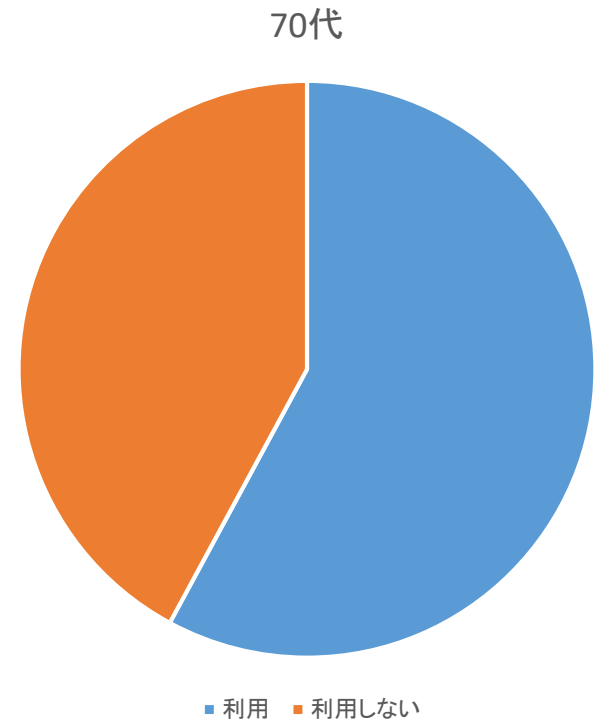
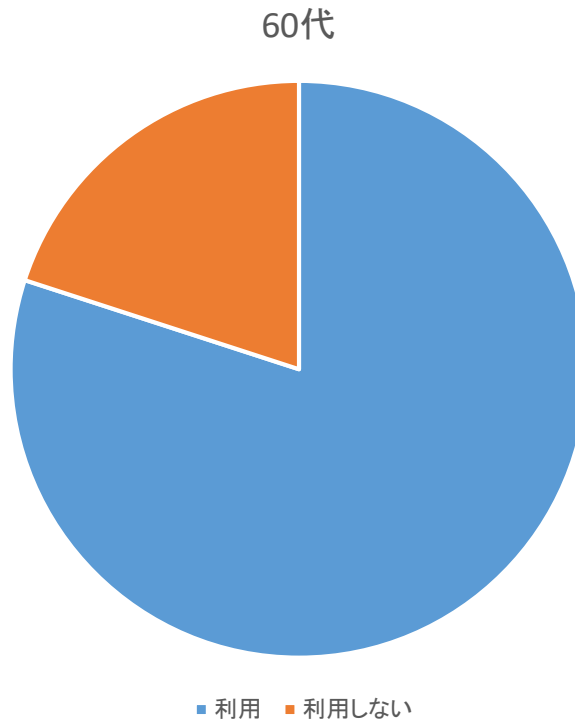
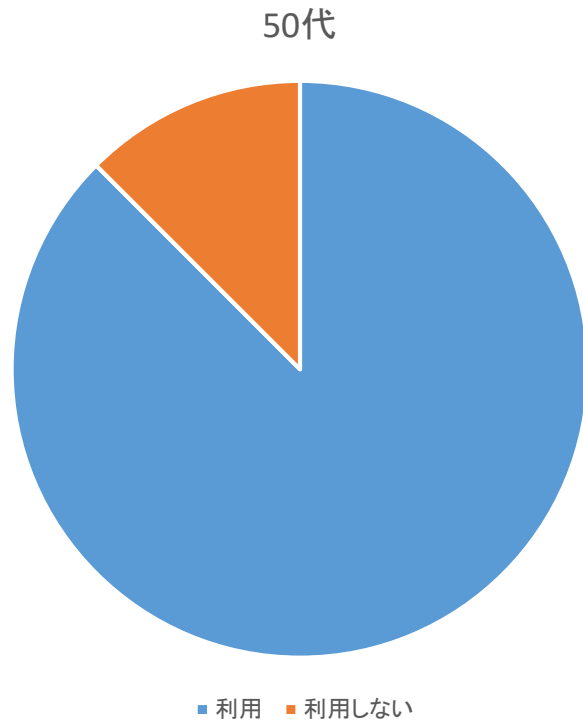
1. 「学生アンケート」を一部改変

●返答数(総数37)

- ・ 50代 8人
- ・ 60代 10人
- ・ 70代 19人

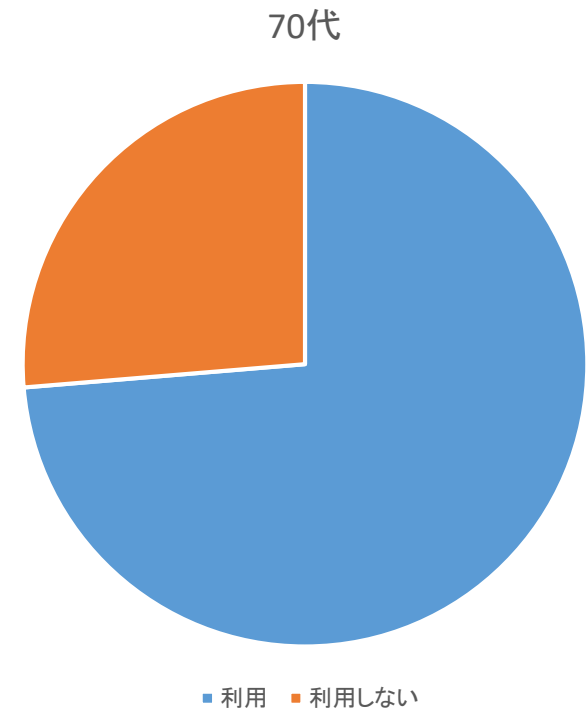
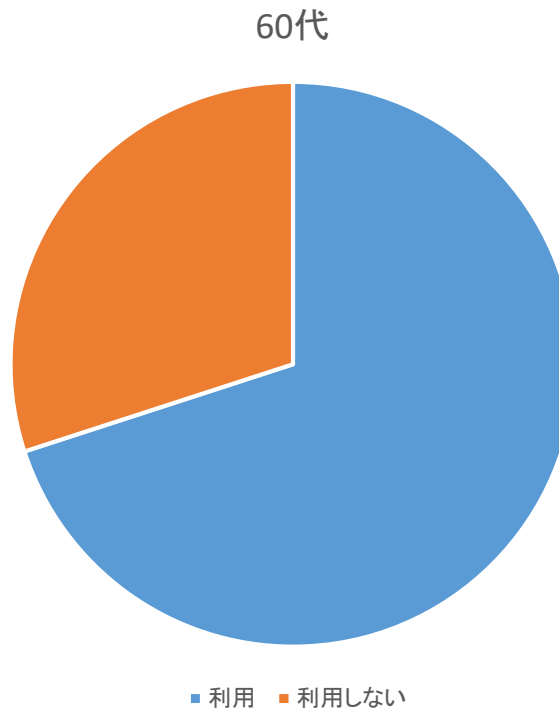
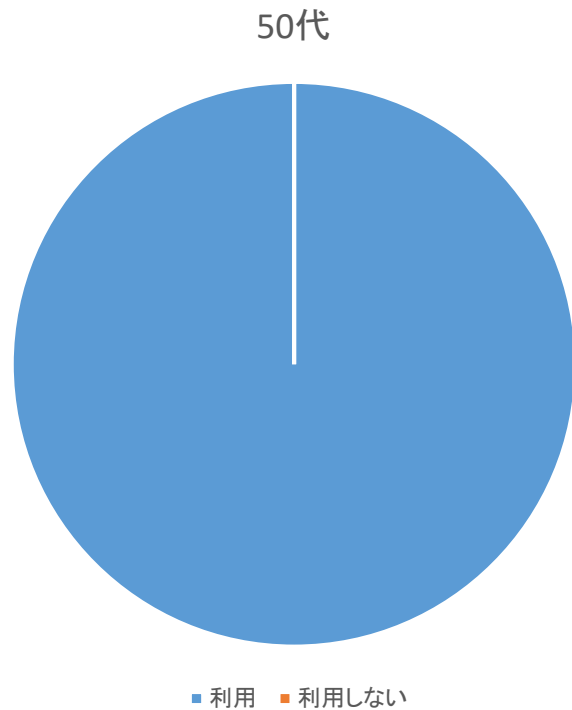
電子マネー利用状況

- 年代上昇に伴い、利用率は下がる



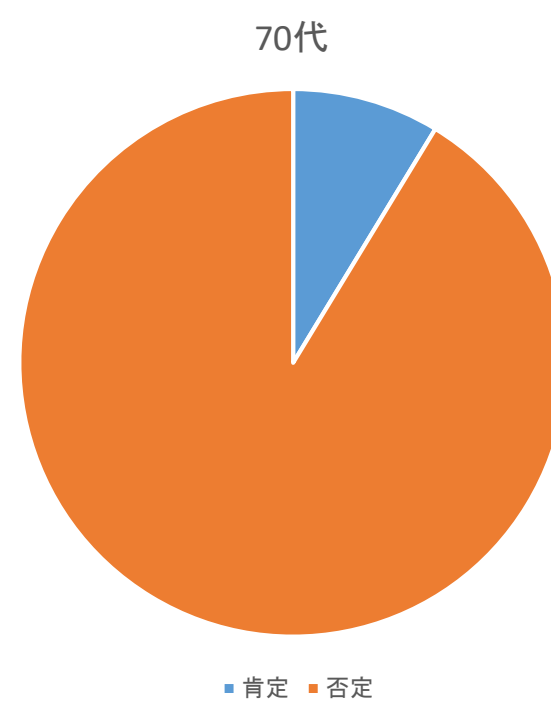
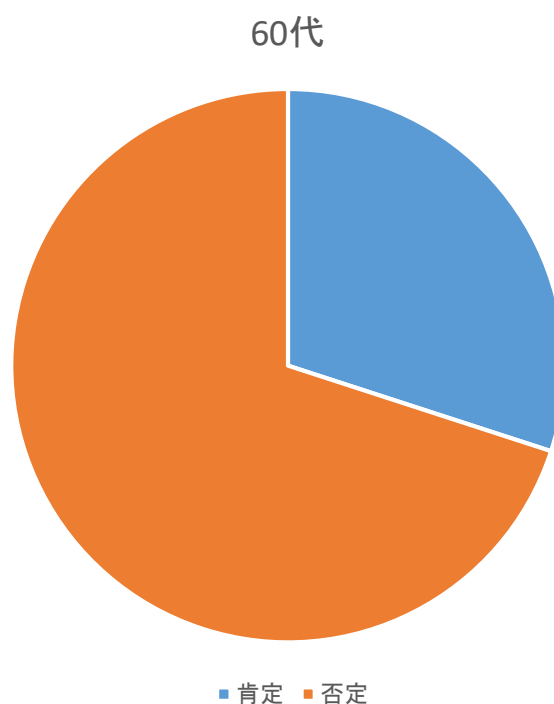
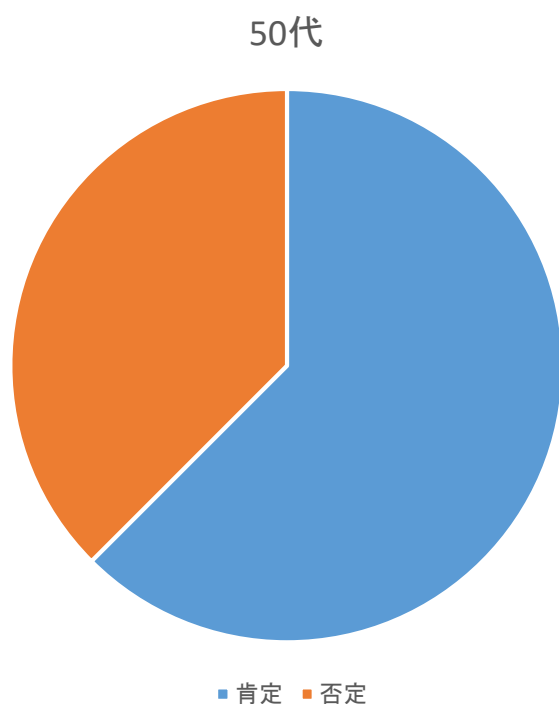
クレジット利用状況

- ・ 60代以上になると、**利用しない人**が増えてくる



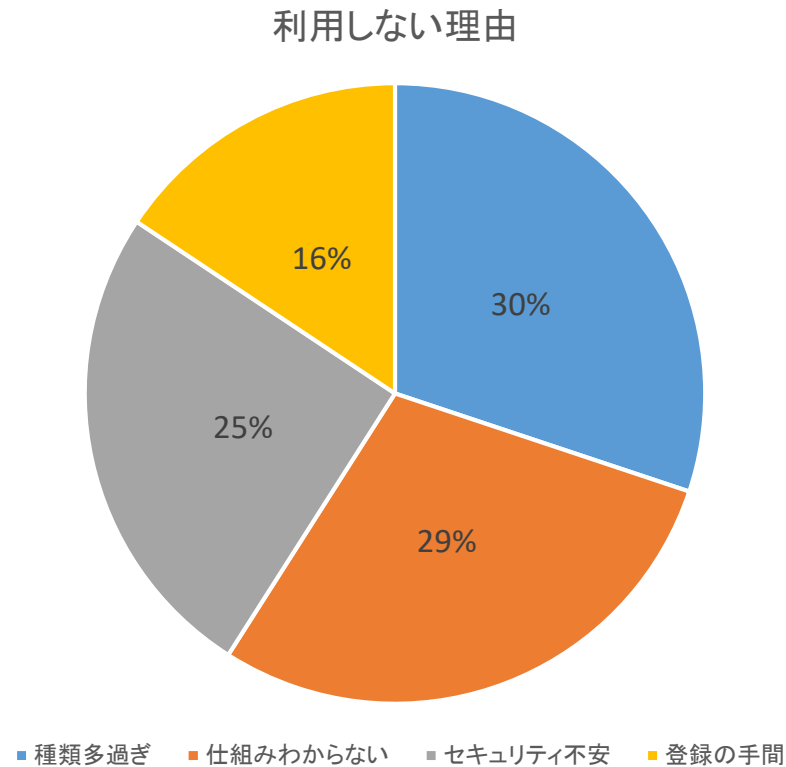
キャッシュレスに対する態度

- 年代上昇に伴い、CLに対して**反対**の立場をとる傾向あり



利用しない・反対する主な理由

- ・ 種類が多すぎる点が最大の理由



アンケートからの考察(学生・中高齢者)

- ・ 年齢にかかわらず、便利であるとの声もある一方
セキュリティ上の不安
 - ・ 高齢者であればあるほど、キャッシュレスに疎い(一般論に合致)
 - ・ 全年代層について、キャッシュレスの
種類が多すぎる
- という点が、手間や面倒となって、
キャッシュレスの魅力減少の大きな原因になっている

企業アンケート

- ・ 方法

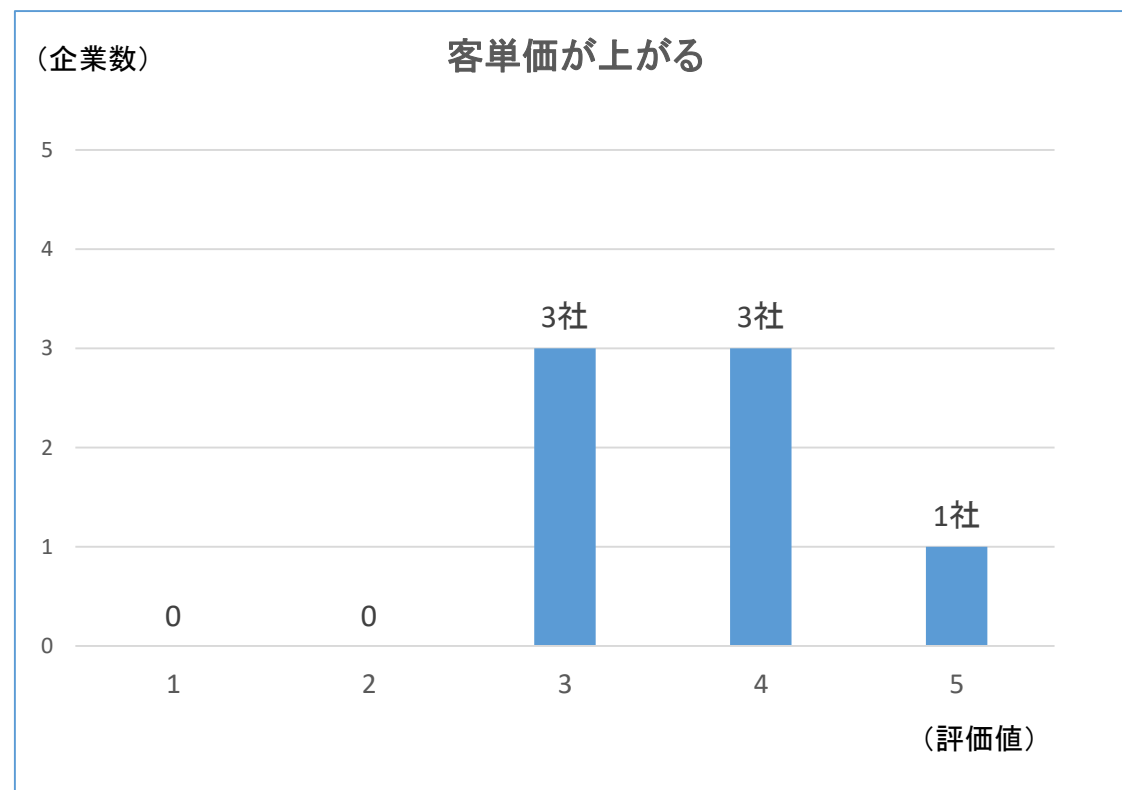
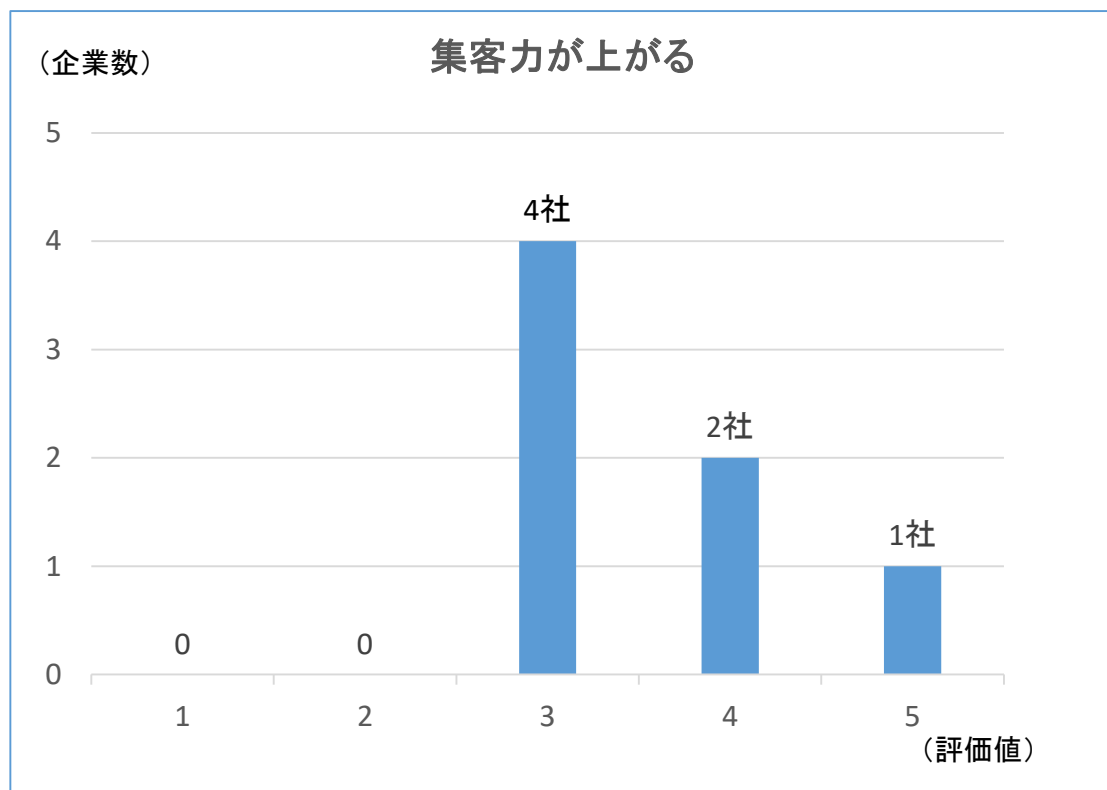
1. Google Formを用いて、ゼミ内でアンケート作成

2. メール・問い合わせフォーム・実際の訪問を通じて、 アンケー
トの回答を得た

- ・ 総返答数 8社（飲食業7、小売業1）

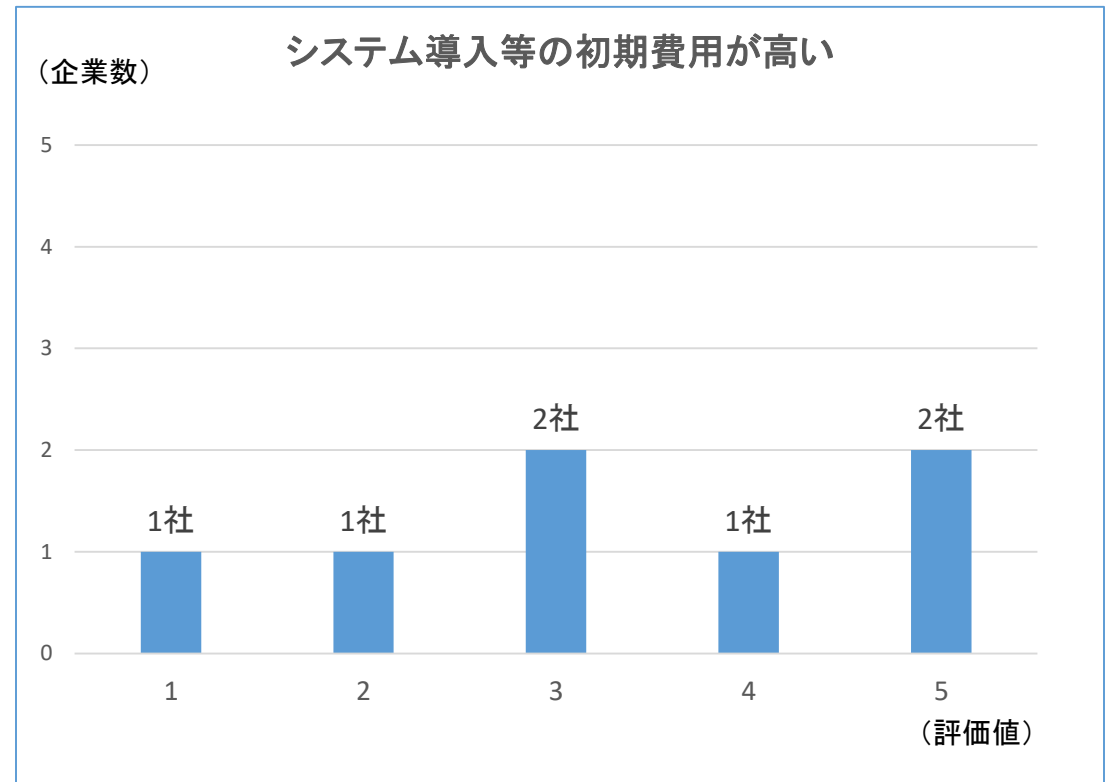
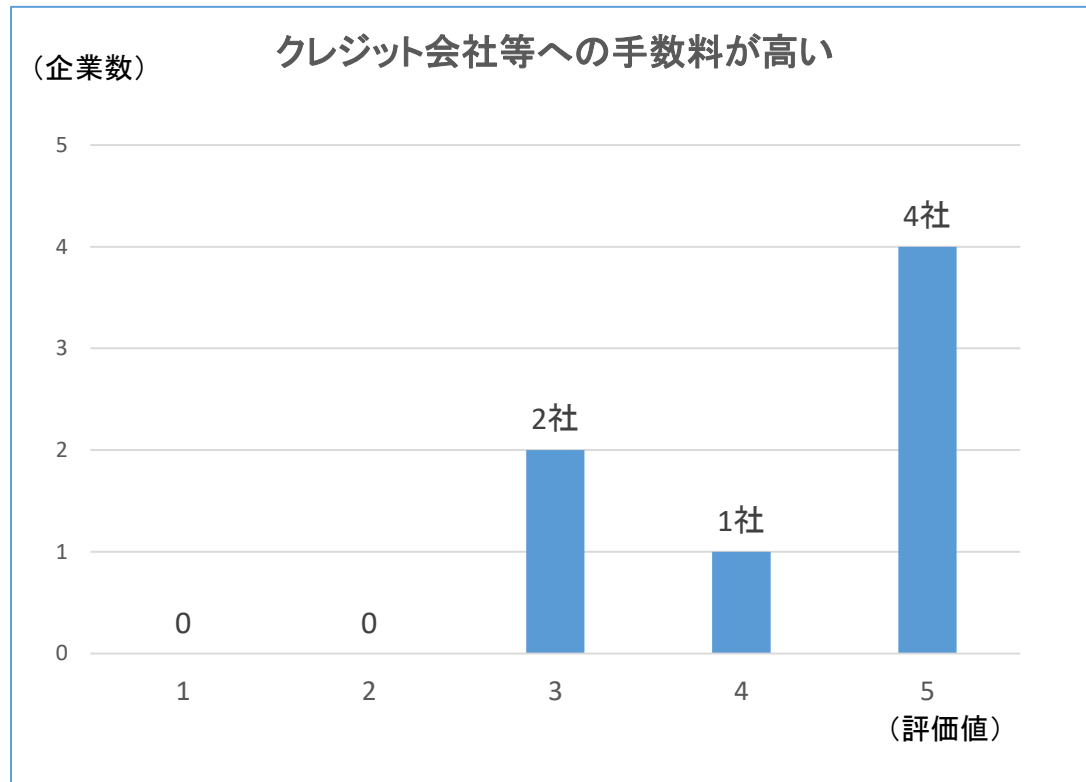
キャッシュレス化メリット(5段階評価)

- キャッシュレス化による**集客力・客単価上昇**を実感する企業が多い

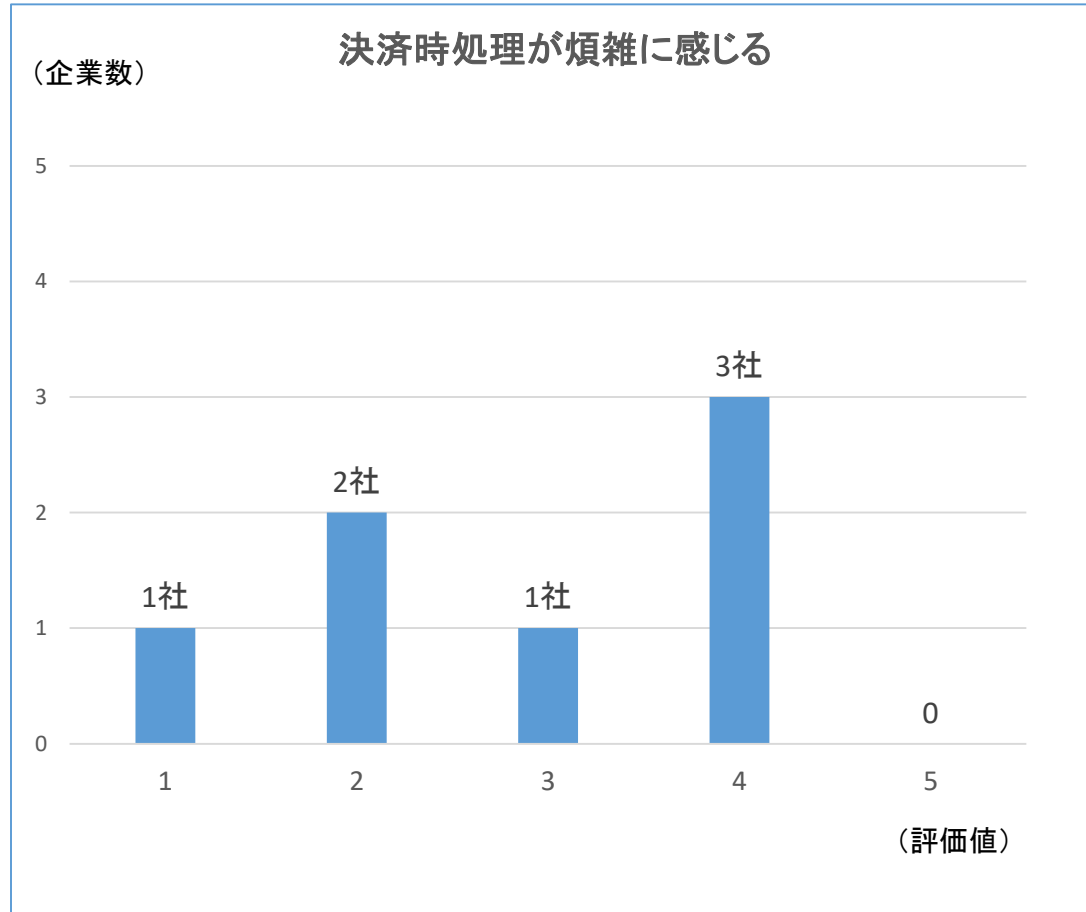


キャッシュレス化デメリット①(5段階評価)

- 決済会社への**手数料・コストの高さ**を強く感じる企業が多い



キャッシュレス化デメリット②(5段階評価)



その他のデメリット意見

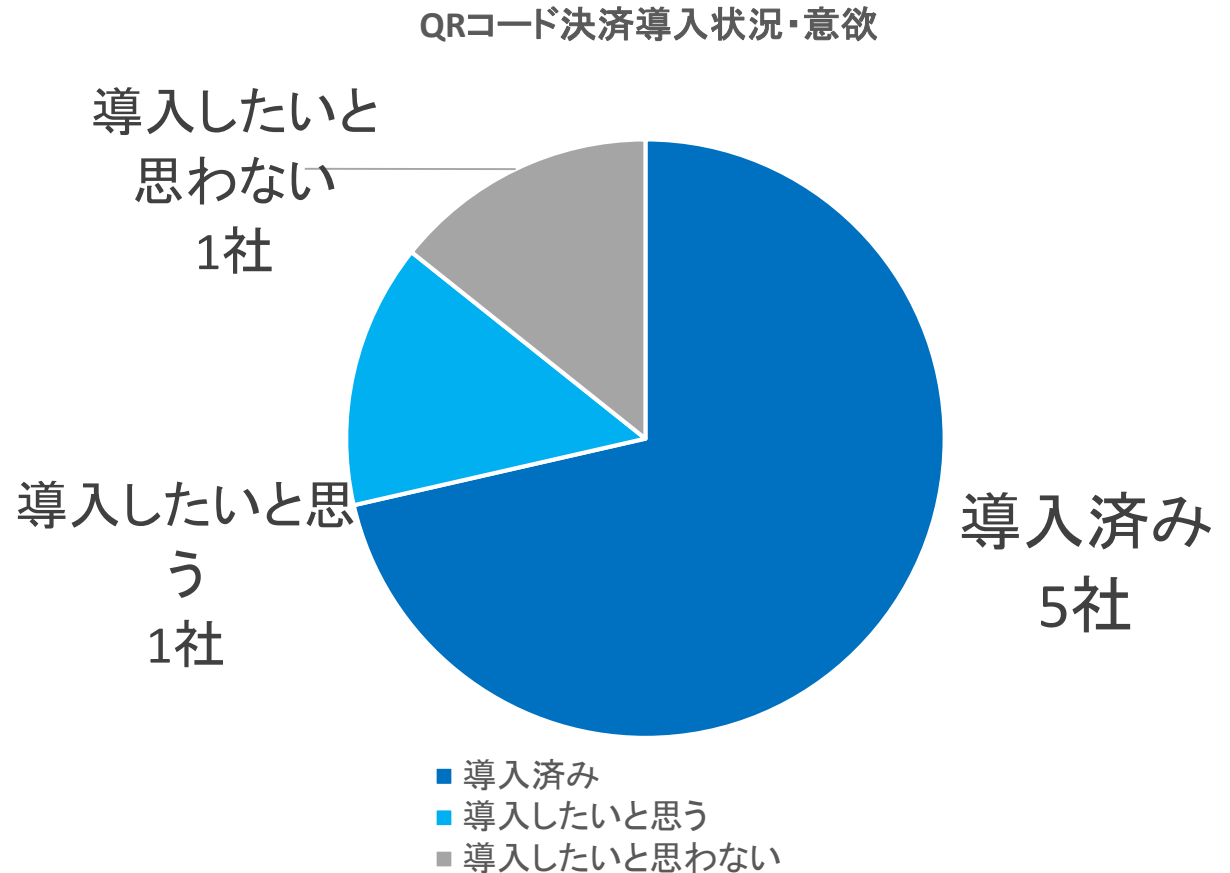
- ・ 従業員への**教育・研修費用**の発生
- ・ 顧客の高齢者への説明が大変
- ・ **新規参入多く**、対応が難しい

QRコード決済導入状況・意欲

Q.貴社ではQRコード決済を導入したいと思われますか。(既に導入済みの場合は「導入済み」をご選択ください。)

(回答数7)

7社中6社が
導入を肯定する
姿勢



企業アンケート結果から

- ✓ 回答した全企業においてキャッシュレス決済を導入済み
うちクレジットカード、電子マネーの導入企業は7割以上
- ✓ 集客力・客単価上昇を実感する声が多い
- ✓ 手数料の高さを強く感じる企業が多い
- ✓ 研修費用・新規参入決済への対応など追加的コストを懸念
- ✓ QRコード決済導入に肯定的な企業が多い

キャッシュレス決済のメリット・デメリット

キャッシュレス決済のメリット

1. コストの節約
2. スピーディーな会計・管理
3. ポイント還元
4. 犯罪・不正対策（現金利用の積極的抑制）

4 犯罪・不正対策（現金利用の積極的抑制）

- ・マネーロンダリングが日本では2018年に過去最多の511件の摘発
- ・現金は匿名が高い
 - 動きを把握しにくい
- ・電子決済はアカウントを通じて記憶が残るので監視も可能
 - 国を挙げた犯罪抑制にまでつながっている



https://www.smtb.jp/others/report/economy/86_0.pdf

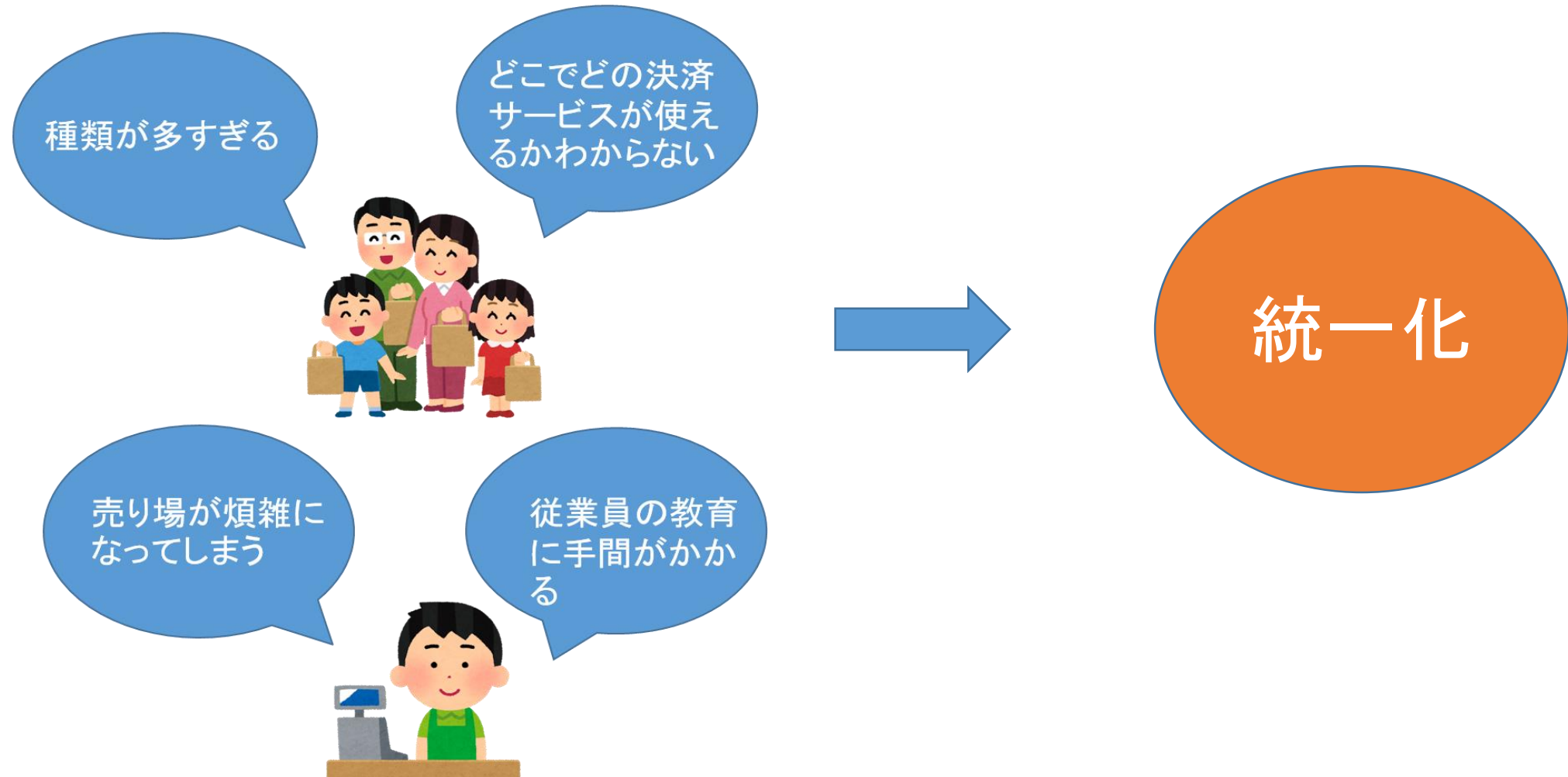
[三井住友信託銀行 調査月報 2019年 6月号](#)

キャッシュレス決済のデメリット

1. 災害時に使えない可能性が生じる
2. 種類が多すぎる
3. 現在、使える店舗が限られている
4. セキュリティの不安

全体を踏まえて

デメリットを踏まえて.....



統一化の先行事例

シンガポール

国主導で
統一化

- SGQRによるQR決済の
統一化

日本の取り組み:JPQR

JPQR

国内の決済サービスが個別で発行していたQRコードを一つにまとめる取り組み

岩手県、長野県、和歌山県、福岡県の4地域で先行実施

2通りの決済方式

MPM方式とCPM方式

MPM方式（店舗提示型コード決済）



1.読み取る

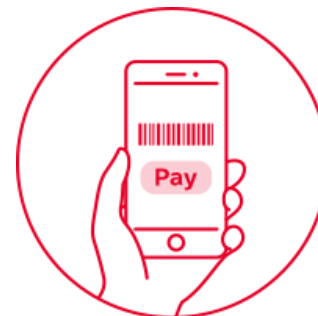


2.支払う



3.完了

CPM方式（利用者提示型コード決済）



1.バーコードを
提示



2.読み取る



3.完了

それぞれの方式の特徴

MPM方式（SGQRはこちらを採用）

- ・ QRコードを用意すれば、決済サービスの提供が可能

➡初期投資費用がかからない

- ・ 決済管理を事業者ごとに行う必要がある

➡会計処理が煩雑になる

CPM方式

- ・ QRリーダーが必要になる

➡初期投資費用が大きい

- ・ 事業者ごとの決済管理を一括して行える

➡会計処理が簡略化される

MPM方式のメリット・デメリット



導入のしやすさ

継続の難しさ

JPQR運用における課題

各種決済サービス
個別のQRコードを
廃止



会計処理の簡略化

結論

- 不安なシステム面や手数料の高さなどのデメリットをなくせば広がるのでは？
- ポイント還元などの政策がよりキャッシュレスを進める追い風になっている。
- キャッシュレス決済を統一すれば利便性が向上しもっと使いやすくなるのではないか。

参考文献

(最終閲覧日2019.11.21)

- ・「現代用語の基礎知識」選 ユーキャン 新語・流行語大賞

<https://www.jiyu.co.jp/singo/>

- ・ ファミリーマート クレジットカード

<https://www.family.co.jp/services/payment/credit.html>

- ・ 札幌リスト

<https://sapporo-list.info/tsukadanojo-20190916/>

- ・ 経済産業省「キャッシュレスビジョン」

<https://www.meti.go.jp/press/2018/04/20180411001/20180411001-1.pdf>

- ・ キャッシュレス・ポイント還元事業

<https://cashless.go.jp/>

- ・ キャッシュレス決済のメリット・デメリットとは

https://www.lifehacker.jp/2019/04/cashless_merit_demerit.html

- ・ 統一QR「JPQR」普及事業

<https://jpqr-start.jp/>

- ・ DEGIMA NEWS 「シンガポールで進むキャッシュレス化 統一QRコード「SGQR」導入を発表」

https://www.digima-news.com/20180919_39121

- ・ モバイル決済モデル推進事業について

http://www.soumu.go.jp/main_content/000576583.pdf

- 日本クレジット協会 クレジット関連統計
- <https://www.j-credit.or.jp/information/statistics/index.html#movement>
- 日本銀行 決済動向一覧
<https://www.boj.or.jp/statistics/set/kess/release/index.htm/>
- 内閣府 国民経済計算（GDP統計）
<https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/menu.html>